

製品名: HDAC3 (リン酸化 Ser424) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04762**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	HDAC3
別名	HDAC3; Histone deacetylase 3; HD3; RPD3-2; SMAP45
遺伝子 ID	8841.0
SwissProt ID	O15379
免疫原	抗血清は、ヒト HDAC3 由来の Ser424 リン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 379-428

背景

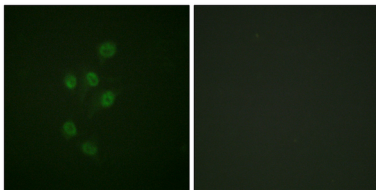
ヒストンは転写制御、細胞周期の進行、そして発生過程において重要な役割を果たします。ヒストンのアセチル化/脱アセチル化は染

色体構造を変化させ、転写因子の DNA へのアクセスに影響を与えます。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ヒストン脱アセチル化酵素/acuc/apha ファミリーに属します。ヒストン脱アセチル化酵素活性を有し、プロモーターに結合した際に転写を抑制します。ジンクフィンガー転写因子 YY1 との結合を介して転写制御に関与している可能性があります。また、このタンパク質は p53 の機能をダウンレギュレーションし、細胞増殖とアポトーシスを調節します。この遺伝子は、潜在的な腫瘍抑制遺伝子と考えられています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ヒストンの N(6)-アセチルリジン残基を加水分解して、脱アセチル化ヒストンを生成する。機能: コアヒストン (H2A、H2B、H3、H4) の N 末端リジン残基の脱アセチル化を担う。ヒストンの脱アセチル化は、エピジェネティック抑制のタグとなり、転写調節、細胞周期の進行、発生イベントにおいて重要な役割を果たしている。ヒストン脱アセチル化酵素は、大きな多タンパク質複合体の形成を介して作用する。おそらく、ジンクフィンガー転写因子 YY1 への結合を介して転写調節に関与し、YY1 抑制活性を高める。POU1F1 転写因子の転写を抑制するために必要である。PTM: in vitro で SUMO 化されている。類似性: ヒストン脱アセチル化酵素ファミリーに属する。タイプ 1 サブファミリー。サブユニット: HDAC7 および HDAC9 と相互作用する。少なくとも YY1 とは異種複合体を形成する。DAXX、HDAC10、DACH1 と相互作用する。NCOR1 および NCOR2 との複合体中に認められる。少なくとも NCOR1、NCOR2、HDAC3、TBL1X、TBL1R、CORO2A、GPS2 からなる N-Cor リプレッサー複合体の構成要素。BCOR、MJD2A/JHDM3A、NRIP1、PRDM6、SRY と相互作用する。BTBD14B と相互作用する。GLIS2 と相互作用する (類似性による)。CBFA2T3 と相互作用する。組織特異性: 広く発現している。、

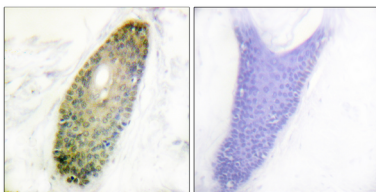
研究分野

タンパク質アセチル化

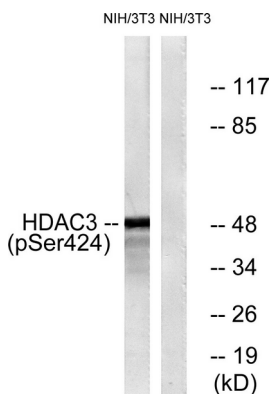
画像データ



HDAC3 (リン酸化 Ser424) 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロックした画像です。



HDAC3 (リン酸化 Ser424) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト皮膚の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロックした状態。



NIH/3T3 細胞ライセートの HDAC3 (リン酸化 Ser424) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロックされている。

